

プログレッシブ

中国語辞典

PROGRESSIVE CHINESE-JAPANESE DICTIONARY

SHOGAKUKAN

プログレッシブ
中国語辞典

江苏工业学院图书馆
PROGRESSIVE
CHINESE-JAPANESE
DICTIONARY
藏书章

SHOGAKUKAN

プログレッシブ中国語辞典

1998年1月1日 初版1刷発行

2003年12月20日 初版8刷発行

編者代表 武 信 彰

発行者 大 澤 昇

発行所 [郵便番号 101-8001]
東京都千代田区一ツ橋2-3-1

株式会社 小学館

電話 編集 東京 (03) 3230-5169

制作 東京 (03) 3230-5333

販売 東京 (03) 5281-3555

振替 00180-1-200

印刷所 凸版印刷株式会社

©SHOGAKUKAN 1998

本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版者の権利の侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。

[R] <日本複写権センター委託出版物>

本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(☎03-3401-2382)にご連絡ください。

造本には、じゅうぶん注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、「小学館制作局」あてにお送りください。送料小社負担にて、お取り替えいたします。

★本辞典の表紙は地球環境に配慮した素材を使用しています。

★小学館外国語辞典のホームページ

<http://www.1-world.shogakukan.co.jp/>

Printed in Japan ISBN4-09-515621-X

序

日本語と中国語とでは、多少の字形の違いはあるものの、同じ漢字という文字を使っている。最近ではさすがに「同文同種」という言葉は耳にすることもなくなってきたが、この点ではそういう誤解を生むほどに近い関係にある。この漢字という、発音にかかわらず同様の意味を伝達可能である文字を共有するということは、学習者にとって本来的には有利な条件である。しかし、同時にその親近感や気安さからさまざまな勘違いや思い込みを犯してしまうのも避け難い。

私たちの祖先は苦心して漢字に訓を施し漢字文化の享受に努めてきた。しかしながら、それははるか以前の中国語を対象としたものである。現代中国語においては、もはや漢字1字分の意味単位でもって単独で自立的に単語として働く場合は、全体から見れば相当に限られる。この事実をしっかりと認識しないままに中日辞典を駆使しても、驚くべき誤訳を作り出したり、まったく通じない中国語文を口にしたりすることになりかねない。

本辞典は、従来の如く親字の下に「字」義と「語」義を明確に区別することなしに列挙するという形式をとらず、親字自体が一つの単語として振る舞う場合と一つの単語を構成する成分にとどまる場合とを峻別する姿勢を貫いて編むものである。これに加え、文法機能を担う語彙の記述にあたっては、初心者にも容易に理解できるようコンパクトにまとめ、学習辞典としてより一層の充実に努めた。

学習辞典には、簡潔かつ的確に疑問に答える検索のしやすさを備えていることはもちろんのこと、さらに常に身近にあって役立つことが要請される。特に通学や通勤に携帯するには、情報をひたすら詰め込んだ「読む」ための辞典ではその用途に合わない。かといって、単語集に近い簡便なものでは使用に堪えない。本辞典は、「使いこなす」ことのできる辞典とするために、使い勝手のよいサイズにボリュームある内容を整理よく盛り込むことを心がけた。

本辞典の完成が編集スタッフおよび編集部の方々の力によることは言うまでもない。個々それぞれの力を尽くし、利用者の立場に立った辞典を作り上げることを目指した。しかしながら、実際に使用されてみるときっと不満な点・不便な点も出てくるかと思う。利用者のご指摘をいただき、さらにより良き辞典にしていけるならば幸いである。

1997年6月1日

武信 彰

この辞典の使い方と特長

1 見出しについて

この辞典には見出しの漢字（親字）と見出し語の2種類の見出しがある。見出し漢字（約6千8百字。**3**を参照）と見出し語及び地名・人名等（約6万語弱。**3**、**4**を参照）の、合わせて約6万5千の語彙が収録されており、中国語の初級及び中級の学習者には、必要かつ十分の見出し数になっている。また、小学館『中日辞典』刊行（1992年1月）以降の中国の発展変化とともに多く現れた新語も、日本人学習者に必要と思われるものを中心に相当数を収録した。

見出し漢字は、大きな活字で中国語発音表記法（ピンイン）のアルファベット順で配列している。見出し語は、同一の見出し漢字で始まるものを一つのグループとして、その見出しの漢字の下にアルファベット順に並べた。例えば **chénggōng**【成功】、**chéngguǒ**【成果】、**chénglì**【成立】の見出し語は『成 **chéng**』という見出し漢字の下に、この順番で並ぶ。

2 発音について

発音は、中国語表音表記法（「漢語拼音方案」1958年成立）に基づいて、ローマ字と声調記号によって示した。音節を示す見出しに限っては、ローマ字以外に注音字母も掲げている。同じ音節でも声調が異なる場合は、その声調の切れ目に②~~~~~のように次の四声を示す数字の記号印を入れ引きやすくした。

① 発音表記についての注意

見出し語の最初に置かれるピンイン表記については、音節が連続して読まれる場合に生じる声調変化は示さず、音節本来の声調で表記している。ただし、漢字表記の後ろに置かれたカタカナ表記については、実際の発音に即した声調変化を示した。（ピンインとカタカナの発音表記についての詳しい解説は、(10) ページからの「カタカナ発音表記を利用して正しい発音を覚えよう」を参照のこと）

例 **běnlǐng**【本領 **bēn**リン^ˇ】

② 異読の取り扱いについて

漢字には二つ以上の読みをもつものもある。それらについて、見出し漢字では**異読**の記号で語義欄の最後に、見出し語では⇒の記号で、項目の最後に同じ漢字表記でも読みが違うものを示し、相互に参照できるようにした。

例 差 **chā** **異読**【差 **chà**, **chāi**】

cháoyáng【朝阳】⇒ **zhāoyáng**【朝阳】

③ 発音に幅がある見出し語について

標準音と慣用音に差が認められたり、声調を付けて読んでも轻声でもよい場合

など、複数の発音が許容される大事な語彙については、**【注意】**などの形で補足説明を加えた。

また、r化してもしなくてもよいものについては、親字については(～儿)を語義の先頭に入れ、見出し語については、見出しに(**r**)を入れた。ただし、カタカナ発音表記が示されたものや、**-zi**(～子)と代替のきくものについては、見出しが煩雑になるので、親字と同じ表示法にした。

例 **fǎzi**【法子】**【注意】**北京方言ではfáziと発音することがある。

càibǎn(r)【菜板(儿)】

càidān【菜单 ツァイ`タン-】(～儿)

3 見出し漢字について

① 見出しの字体・字形について

この辞典で、見出しとして掲げた漢字(親字)の字体は、中華人民共和国で標準字体とされているものである。歴史上、同音・同義で使用された字体(異体字)で、重要と思われるものは括弧に入れて示した。ただし、偏(へん)や旁(つくり)については一つ一つは示していない。これらについては、(18)ページの「中国標準字形照合表」を参照されたい。

また、今日、中華人民共和国で使用されている字形は、1964年発表の「印刷通用漢字字形表」によって整理され規範化された字形である。これは「新字形」と呼ばれ、旧来の中国の漢字および現在日本で使われている漢字と形が異なるものもある。これらの違いについても、(18)ページの「中国標準字形照合表」を参照されたい。

例「马(馬)」は示すが、「騷(騷)」は偏だけの簡化字なので()内は表示しない。

「直」と「𠩺」は字形の違いなので、(直)とは表示しない。

② 見出し漢字の配列について

中国語表音表記法(ピンイン)で表記した場合のアルファベット順で、音節ごとに配列した。ウムラウトのüは、uの後ろに置いた。(中国語の音節については、(14)ページからの「中国語音節表」を参照のこと)

ローマ字表記が同一の漢字は、第1声から声調の順に配列し、軽声に発音される漢字は第4声の後に置いた。

ローマ字表記も声調も同一の字は、字形に同一部分を持つものを続けて配列した。

例「超」「朝」「潮」「巢」「炒」はすべてローマ字表記はchaoだが、「超」は第1声なので先に、「炒」は第3声なので後ろに示した。「朝」「潮」「巢」はすべてcháoとローマ字表記も声調も同じだが、「朝」と「潮」は字形に同一部分を持つので続けて並べた。

③ 単語と造語成分について

漢字1字の意味単位は、そのままで単語として働く場合と、単語となり得ずに単に単語を構成する「材料」ととどまる場合とがある。この辞典では、後者については「(造語成分として)」と明確に表示し、語釈から切り離しははっきりと区別した。(1) ページの序を参照)

④ 地名、人名の固有名詞について

最重要の場合を除いて、地名・人名は見出し語として、立項していない。その代わりに、見出し漢字の最後に、**地名** **人名** の記号を付け、発音と日本語訳を付け、簡単に一覧できるようにした。人名は、有名な人物の名を前に、一般の姓名を後ろに置き、間に；を入れ区別した。

4 見出し語について

見出し語は、同一の見出し漢字を先頭の文字とするものを一つのグループとして、それぞれの見出し漢字の下にまとめて示した。ただし、漢字表記は中国語表音表記(ピンイン)の後ろに【 】に入れて表示した。

見出し語には、単語のほか連語、成語、慣用語、諺、接尾語なども含まれる。

① 見出し語の配列

見出し語の配列は、音節(漢字)を単位とする中国語表音表記法(ピンイン)のアルファベット順である。したがって、単純なローマ字順ではない。

また、大文字・小文字は順序に関係しない。

ローマ字表記が同一の音節は、第1声から声調の順に配列し、轻声は第4声の後ろに置いた。

例 “成器” “成气候” “成千上万” “成亲” の4語は2番目の漢字が、qì, qì (hou), qiān, qīn なのでこの順に並ぶ。qìhou (これは漢字2文字) と qiān を機械的にローマ字順とはしない。

例 “成书” “成熟” “成数” のローマ字表記はすべて chengshu だが、“书” は第1声、“熟” は第2声、“数” は第4声なので、この順に並ぶ。

② 見出し語のローマ字表記の分かち

二つ以上の単語から作られていることが明らかな見出し語は、分かち書きをした。また、成語も原則として分かち書きとした。

「kàn//jiàn【看见】」「qǐ//lái【起来】」「tóng//xué【同学】」のように「//」(ダブル・スラッシュ)を入れた見出し語は、「//」の部分に他の成分を挿入することができることを表す。ただし、この「//」記号は動詞用法に有効で、名詞用法の場合は意味を持たない。

例 kàn//jiàn【看见】→看得见、看不见

qǐ//lái【起来】→起得来、起不来

tóng//xué【同学】→我们俩同过两年学

→「同窓生。学友」(この意味の場合は、間に他の成分が挟めない)

ただし、両者を明確に区別する必要があると思われるものについては（ ）内に見出し語との表記の違いを示した。これは連語についても同様である。

例 **dàodǐ**【到底】 →❶『副詞』 いったい、そもそも。
→❷ (dào//dǐ) 最後まで…する。

③ 複合方向補語の見出し

方向動詞「**jìn//lái**【进来】」が他の動詞の後に付いて方向補語となる場合については、特にその後ろに「-**jìn//lái**【进来】」のように見出しとしてあげたが、意味や用法が複雑なものは、上下を罫線で仕切って、「複合方向補語“-出来”の用法」のようにタイトルを付け、詳細な説明と用例を加えた。この場合、「-」は、動詞・形容詞に後置されることを示すと同時に、この部分にも他の成分を挿入できることを示す。

5 語釈と用例について

語釈すべき意味が複数にわたる場合は、基本的には**1、2、3…**の数字で分類して示した。ただし、品詞や来源などが異なることにより、これより大きく分類する必要があると思われるときは、まず❶、❷、❸…の数字で分類し、その下位区分に**1、2、3…**の数字を用いた。逆に、**1、2、3…**の意味区分をさらに細かく分類する必要があるときは、用法上の分類においては[a]、[b]、[c]…を用い、意味上の分類においては①、②、③…を用いた。ただし、細かく分類する必要はないが、意味に違いがある場合は、「；」（セミコロン）で区切って掲示した。

また、重要な語義については、ゴシック体（太い文字）で示し、利用者の便を図った。

用例は例文、例句を分けず、一律に「¶」（パラグラフ記号）で始まりを示した。用例と日本語訳の間は、「/」（スラッシュ）で区切った。また用例中に見出し相当の漢字と語句は、間に他の成分が入らない場合は、「～」（波ダッシュ）で代替した。なお、用例が文であっても「。」（句点）は省略した。

① 語釈の順序について

この辞典では、必ずしも従来の使用頻度にかかわらず基本義から並べるという語釈の順序をとらず、初級者・中級者が接する機会の多いであろう語釈を前に持ってきて、学習の便を図った。

上記**3③**の通り、見出し漢字のもとの語釈においては、造語成分としての意味は、初級者が現代中国語で自由に単語として運用できるものと誤解しないように、これをひとまず排除し別記の形で示した。

同一の語釈の中でも、用法や意味がかなり特殊であり、読者に注意を喚起する必要があると思われる場合は、[] にその用法や意味を入れ、その後には用例を置いた。

② 品詞表示について

閉鎖的に数が限られ、文法的な働きを主とする副詞・助詞・接続詞・介詞・代

詞・量詞ならびに接尾語・感嘆詞・擬声語などについては、原則として品詞名を表示した。

形容詞・動詞・名詞については、初級者に必要と思われる一部の場合を除き、特に品詞名を掲げず、訳語と用例で明らかになるように努めた。また、重要な語彙については、▶ や **語法** **注意** などの補足説明を加え、より詳細な文法情報を盛り込んだ。

③ 記号・略号表示について

見出しの後ろに、必要に応じて〈書〉(文章語)、〈方〉(方言)、〈成〉(成語)、〈慣〉(慣用語)などの記号で、使用レベルを示した。専門語には〈医〉(医学用語)、〈電算〉(コンピュータ用語)などの記号で、その分野を示した。また、括弧で同義・類義語(=)、反義・対義語(↔)をあげたものもある。

さらに、名詞には必要に応じて、**量**の記号の後ろに、その名詞について使用される代表的な量詞を示した。

また、語釈・用例で()に入れたものは補足説明、《 》にいれたものは説明的な語釈、[]に入れたものは前の語と代替可能なことを表している。さらに、例文・例句の前に×印が付いたものは、そのような用例法はない(間違い)であることを示す。(詳しくは、8の「記号・略号・ラベル一覧」を参照のこと)

④ 用例中のピンイン表記について

初級者の必要に供するため、例文・例句中にもなるべくピンイン(ローマ字表記)を付けるようにした。ただし、スペースの関係もあり、初級者のあまり目にふれないような見出しの用例や、用例中の簡単な語彙のピンインは割愛した。また、例文中のピンインは語彙単位で付すことを原則とした。

6 囲み記事などについて

日本人学習者の理解しにくい中国語の語彙や語法については、用い方を中心に、例文を付けて詳しく解説した。その主なものは「方向補語」(上下を罫線で区切った)、「結果補語・状態補語」(リーダー罫で囲った)、重要語彙(罫線で囲った)である。(9の「小囲み記事目次」を参照)

また、少数の重要な見出し漢字については、初級学習者が語釈の相互の関係をつかめるよう、基本的な訳語を太い罫線と細い罫線で上下に区切ってサマリーとして前に示した。

少数の百科項目については、固有名詞を中心に語彙のシソーラス(ミニ単語集)を、飾りの罫線で囲んで囲み記事にした。(9の「小囲み記事目次」を参照)

また、重要な見出しには、次の記号によって各種の補充説明を行った。

語法 文法上の注意事項、および用法。

注意 語彙の用い方や発音の注意事項。および、日中同形語における注意。

参考 関連する事項で、中国語学習の上で参考になるとと思われる事柄。

比較 類義語間の意味・用法の違い。

さらに、多くの語彙や用例に、必要に応じ▶記号を用いて、簡単な補足説明を付けた。

7 索引・付録・図版について

① 索引について

この辞典では、ピンイン（ローマ字表記）が分からない場合を想定して、各種の漢字索引を付けている。「部首索引」「（日本語読みで親字が引ける）音訓索引」「（部首からは引きにくい字の）総画索引」——さまざまな角度から検索が可能になっており、初級者にも使用しやすいものとなっている。それぞれ使い方については、この解説の後ろにある索引ページを参照されたい。

② 付録について

中国語を学び始めたばかりの人でもすぐ使える、「場面別トラベル中国語会話」が、巻末付録に付いている。中国へ旅行に行くときや、中国人と日常会話をするときなどの、参考にされたい。ここではすべての文例にピンイン（ローマ字表記）とカタカナ表記を入れたが、本文と異なり、ピンインにも実際の発音に即した声調変化を示した。

③ 図版について

会話表現を中心に、約100点のイラスト・図解を配し、ビジュアルな親しみやすさ、見やすさを工夫した。

8 記号・略号・ラベル一覧

- 【 】 見出し語の中国漢字表記を示す。
- 接尾語を示す。
- 112** 大きな語義分けを示す。
- 12** 語義番号を示す。
- a|b** 用法の違いを示す。
- ①② 細かな語義分けを示す。
- ②..... 音節内の四声の始まりを示す。
- (=) 同義語・類義語を示す。
- (↔) 反義語・対義語を示す。
- || 文字情報の区切りを示す。
- ¶ 用例の始まりを示す。
- ～ 見出し相当語の省略を示す。
- / 用例中の中国語と日本語の境を示す。
また解説文中では代替可能を示す。
- “ ” 日本語の文中の中国語を示す。
- ▶ 訳語・用法等の補足説明を示す。
- 量 見出し語に使われる主な量詞を示す。

- 空見出しから主見出しへの参照を示す。
- ⇒ 参考になる関連見出しへの参照を示す。
- 親字あるいは見出し語の用例の空見出しで、それが別の見出し語として下記に立項されていることを示す。
- ・ 行末でピンイン綴りが切れるが、本来は続いていることを示す。
- **〔地名〕〔人名〕** の項で、親字のピンインの代替を示す。
- × 間違いの用法を示す。

〔異読〕 親字に別の音があることを示す。

〔 〕 説明的な語釈を示す。

() 補足説明を示す。

[] 代替可能を示す。

〈成〉成語	〈略〉略語	〈書〉書面語
〈口〉口語	〈方〉方言	〈俗〉俗語
〈転〉転義	〈旧〉旧中国で使われていた言葉・語義	
〈近〉近世の白話	〈古〉古代中国で使われていた言葉・語義	
〈諺〉ことわざ	〈套〉挨拶などの儀礼的な常套句	
〈喩〉たとえ・比喻	〈敬〉敬語	〈謙〉謙譲語
〈婉〉婉曲表現	〈慣〉慣用語	〈諧〉諧謔
〈諷〉諷刺・皮肉の表現	〈罵〉罵り言葉	〈貶〉 ^{いひな} 貶し言葉
〈譏〉そしり、非難するニュアンスをもつ言葉		
〈中医〉中国の伝統医学・漢方	〈中薬〉中国薬・漢方薬	
〈医〉医学	〈薬〉薬物・薬学	
〈宗〉(仏教を除く)宗教	〈仏〉仏教	〈史〉歴史上の事柄
〈物〉物理	〈化〉化学	〈天〉天文・天体
〈気〉気象	〈地〉地理	〈地質〉地質学
〈鉦〉鉦物	〈数〉数学	〈冶〉冶金
〈印〉印刷	〈電〉電気	〈電子〉電子工学
〈電算〉コンピュータ	〈機〉機械	〈紡〉紡績
〈裁〉裁縫	〈無〉無線	〈測〉測量
〈水〉水利・治水	〈音〉音楽	〈美〉美術・美学
〈劇〉演劇	〈映画〉映画	〈心〉心理学
〈論〉論理学	〈生理〉生理学	〈生〉生物学
〈生化〉生化学	〈文〉文学	〈語〉言語学・語学
〈商〉商業	〈経〉経済	〈政〉政治
〈法〉法律・司法	〈動〉動物	〈植〉植物
〈虫〉昆虫類・クモ類	〈魚〉魚類	〈貝〉貝類
〈鳥〉鳥類	〈農〉農業	〈林〉林業
〈牧〉牧畜業	〈体〉体育・スポーツ	〈交〉交通

カタカナ発音表記を利用して正しい発音を覚えよう

この辞典で使用するカタカナ発音について

はじめに

現代中国語の共通語「普通話 pǔtōnghuà」の発音は、ピンイン「拼音 pīnyīn」と呼ばれる中国式ローマ字表記と声調符号によって表されます。これは「汉语拼音方案」(1958年公布)に基づくもので、中国語の発音を正しくマスターするためには、ピンインのつづり方規則を理解し、実際の音声を聞き、みずから声を出して練習する必要があります。中国語を習い始めると、最初に発音の練習に相当の時間を割くのはこのピンインの規則に慣れるためでもあります。

中国語は発音が難しい、という声をよく耳にしますが、中国語の発音は本当に難しいのでしょうか？ 声調・そり舌音・無気音と有気音の区別など、日本人学習者が中国語の発音を学ぶ際、とまどう点はいくつかあります。しかし、原因はほかにもあるのではないのでしょうか。その原因のひとつとして、ピンインのつづり方規則の複雑さがあるように思えます。初級の学習者は中国語の発音そのものが難しいのではなく、ピンインのつづり方を習得するのに難しさを感じているのではないのでしょうか。

この辞典では、ピンインを習得する際の手助けとして、またすでにピンインを学び終えた学習者がピンイン表記の落とし穴にはまるのを防ぎ、より中国語らしい発音をするために一部の語にカタカナ表記を採用しました。カタカナ表記は主に初級の学習者にとって重要と思われる単語を中心に付けてあります。カタカナ表記とピンインとの対応関係については中国語音節表を参照してください(→(14)P)。ただし、この辞典で採用したカタカナ表記はピンインで表される個々の音節と1対1で対応しているわけではありません。それではピンインを単純にカタカナ表記で置き換えただけになってしまいます。カタカナ表記では全体の体系にこだわらず、なるべく原音に忠実にという点を原則としました。以下、ピンインとの相違点を中心にカタカナ表記について説明することにより、あわせて中国語の発音の特徴についても解説していきます。

図Ⅰ 中国語の音節構造を覚えよう！

字 音	声 調			
	声母	韻 母		
		介音	主母音	韻尾
江 jiang	j	i	a	ng

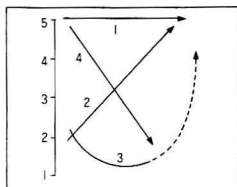
カタカナ表記の約束事

日本語の表記に用いるカタカナで正確に中国語の発音を表すというのは当然のことながら無理な話です。そのため、カタカナ表記ではどうしても表すことのできない、中国語に特徴的な発音のいくつかについては、カタカナ以外の補助的な方法を用いています。

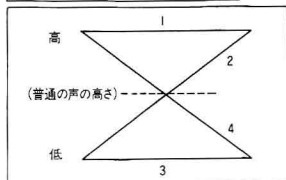
1. 声調について

中国語の音節には声調と呼ばれる高低アクセントがあります。共通語の声調は、高く平らな第1声、低→高の第2声、低く押さえる第3声、高→低の第4声という4つのタイプがあるので「四声」と呼ばれています(図ⅡⅢ参照)。また、声調にはこのほかに固有の声調を失い軽く短く発音される「轻声」があります。声調を表すのにピンインでは声調符号を原則として主母音の上に付けますが、カタカナ表記ではカタカナの後ろに付けてあります。

図Ⅱ



図Ⅲ



第1声 ā【ア】

第2声 á【ア’】

第3声 ǎ【アˇ】

第4声 à【アˋ】

四声の中でもっとも厄介なのが第3声の発音です。第3声は図Ⅱのように最後の部分が尻上がりのように思いがちですが、実際には図Ⅲのように低く押さえるという意識をもつことが大切です。第3声の後ろに第3声以外の声調が続く、連続して発音されるときに第3声のもつ低く押さえるという特徴がよく表れるので、カタカナ表記ではこのときの第3声を【-】で示しています。

kǎoshì【考试 カオˊシˋ】

hǎohàn【好汉 ハオˊハンˋ】

また、第3声の音節が続く、連続して読まれると、前の第3声は第2声に声調が変化します。ピンインでは変化する前の声調をそのまま付けますが、カタカナ表記では実際に発音される変化後の声調を付けています。ピンインを見て発音するときには、頭の中で一度「変換」を行ってから読まなければなりません、カタカナ表記ではこの手間が省けます。

shǒubiǎo【手表 ショウˋピャオˇ】

yǒuhǎo【友好 ヨウˋハオˋ】

ただし、「手表」で【ショウˋ】の【ˋ】は本来の声調ではありませんので、ピンインを見ることによってその漢字本来の声調を確認してください。

さらに、「第3声+轻声」の組み合わせで、轻声となっている漢字が本来、第3声であったときは2通りの読み方があります。カタカナ表記では発音された声調に基づいて声調符号を付けています。

① **jiějie**【姐姐 チェˊエˋチェ】

yǐzi【椅子 イˋツ】

② **nǎli**【哪里 ナˋリ】

xiǎojiě【小姐 シャˋオˋチエ】

2. 単母音の発音について

単母音の発音で日本人学習者がとくに注意すべきなのは、eとü(yu)の発音です。

e【オ】

ü(yu)【ユイ】

eの発音は唇に丸みをもたせないで出す「オ」の音です。カタカナ表記では【オ】という太字を用いました。ü(yu)の発音は唇をすぼめ、緊張感をもたせて出す、日本語の「ウ」とも「イ」ともとれる音です。カタカナ表記では

【ユイ】と2文字で書いてありますが、あくまでも1音節なのでなめらかな発音を心がけてください。また、日本語に似た音があるからといってピンインのa o i(yi) u(wu)を日本語の「ア」「オ」「イ」「ウ」で発音しないように。aはより口を大きく開け、oは口に丸みをもたせ、i(yi)は口を左右に引きはっきりとした音を出し、u(wu)は口を丸めて突き出すようにして発音します。

3. 複母音の発音について

単母音で練習した発音が複母音の中では、ほかの母音の影響を受け微妙に変化します。ピンインはその変化に関心を示してくれませんが、カタカナ表記の助けを借りて発音するとよいでしょう。たとえば、eは他の母音と結びつき複母音になると、日本語の「エ」に近い音で読めます。

ei【エイ】 ie(ye)【イエ】

ue(yue)【ユエ】 uei(wei)【ウエイ】

つぎに、iou【ヨウ】とuei【ウエイ】は声母と結びつくとピンインの表記が変化します。

j+iou→jiu d+uei→dui

jiu, duiのように主母音であるoやeが消えてしまいます。ところがこれらの音節を第3声や第4声で読むとoやeの音が聞き取れます。この変化についてもピンインは何も語ってくれません。カタカナ表記ではこの点に注意を促すため、つぎのように表しています。

jiǔ【酒 チョˋウ】 duì【対 トゥエˋ】

【オ】や【エ】によってoやeの存在に気付いてください。

4. 無気音と有気音について

中国語の声母でもっとも特徴的なのが、無気音と有気音の区別です。日本語では「か(蚊)」と「が(蛾)」のように清濁の違いが意味の区別に関係しますが、中国語では無気と有気の違いが意味にかかわってきます。つぎに示す6組の対立関係があります(なお、声母のみでは発音しにくいので、ふつう相性のよい母音をつけて練習します)。

	無気音	有気音
唇音	bo【ボˋ】	po【ポˋ】
舌尖音	de【トˋ】	te【トˋ】
舌根音	ge【コˋ】	ke【コˋ】
舌面音	ji【チˋ】	qi【チˋ】
そり舌音	zhi【チˋ】	chi【チˋ】
舌歯音	zi【ツˋ】	ci【ツˋ】

図Ⅳ

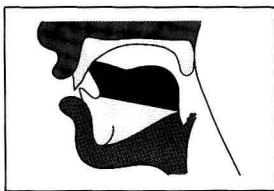
無気音	bo	b	o
有気音	po	p	o

有気音の発音は、図Ⅳのように声母とそれに続く母音を発音する間に息が出る音（または強い摩擦音）が聞こえるように発音します。逆に無気音は声母と母音の間隔をつめるような気持ちで発音すればよいでしょう。カタカナ表記で無気音と有気音の区別は、有気音を太字で書くことによって表しています。また、無気音の b/d/g/j ……は【ボ/ト/コ/チ/……】と表記しているように、日本語の濁音ではありませんので注意が必要です（ただし、軽声や第3声で発音される一部の声母は濁音のように読まれることがあり、この辞典のカタカナ表記でも濁音を用いたところがあります）。

5. そり舌音について

中国語には zh, ch, sh, r の声母をもつ「そり舌音」の発音があります。発音の練習をする前に舌先の位置を確認しましょう。図Ⅴを参考にして舌先を前歯の後ろあたりから徐々に奥の方へもって行ってください。急にくばむあたりに舌を立てるようにして軽く当てます。舌の位置はだいたいこのあたりです。生まれて初めての舌の動きかもしれませんので、コツをつかむまでちょっと時間がかかるかもしれません。日頃あまり意識しては動かすことのない舌の運動だと思って発音練習しましょう。そり舌音の発音もカタカナではうまく表せないで、【ㄣ】（スラー）の記号を声母にあたるカタカナの上に付けました。【ㄣ】のマークを見たら舌先を立てる準備をしてください。

図Ⅴ



zhi【チ】 chi【チ】 shi【シ】 ri【リ】

お気付きになっている方もあるかと思いますが、ピンインでは声母の後ろに i があるのに、カタカナにはそれに当たる文字がありません。この i は無視してしまってください。ここではそり舌音の発音に専念してください。i にかまっている暇はないはずです。そり舌音と

もに自然と出てくる音、その音を i で表しているにすぎません。

実はこのピンイン i は 3 種類の音を表しています。

3 種類の i

ji【チィ】 qi【チィ】 xi【シィ】 の i
zhi【チ】 chi【チ】 shi【シ】 ri【リ】 の i
zi【ツー】 ci【ツー】 si【スー】 の i

ピンインとカタカナとを見比べてください。くれぐれも i に惑わされないように。

6. 舌根音 h の発音について

発音そのものはさほど難しくありませんが、f の発音と混同しないよう注意が必要です。h の発音のしかたは、寒い日に手を「ハア」といって暖めるときに要領です。のどの奥の方から音を出さないと f の発音になってしまいます。カタカナ表記では h の発音を太字で表しています。

hu【フッ】 fu【フッ】

7. 鼻音韻尾 -n と -ng について

日本語で「マンザイ（漫才）」「アンナイ（案内）」などというときの「ン」が -n に、「マンガ（漫画）」「アンガイ（案外）」などというときの「ン」が -ng にあたります。この辞典のカタカナ表記では -n を【ン】、-ng を【ㄣ】で区別しました。日本語ではこの区別が意味に関与しないので、「マンガ」と言うべきところを、間違っても「マンガ」と言ってしまうと、別のものを指すといったことはありませんが、中国語ではこの -n と -ng の違いが意味にかかわるのでたいへん重要です。-n で終わる音節は最後に舌先を上の前歯にしっかりとつけるのが発音のポイントです。反対に -ng は舌先をつけず、息が鼻の方から抜ける感じになります。

fàn【飯 ファン】 fàng【放 ファン】
guǎn【館 クアㄣ】 guǎng【廣 クアㄣ】
yín【銀 イン】 yíng【營 イン】

-n、-ng の区別には日本語を利用した便利な見分け方があります。上の漢字を日本語で音読みしてみてください。韻尾 -n をもつ漢字はいずれも「ん」で終わっているのがわかると思います。

-n と -ng との区別でもう一つ注意していたきたい点は、-n、-ng が前の母音の音色に微妙な影響を与えることです。

liǎn【臉 リエン】 liǎng【兩 リアン】
nián【年 ニエン】 niáng【娘 ニアン】

i と n にはさまれた a は【エ】、i と ng にはさまれた a は【ア】になります。中国語を学びたての人にとっては、ian を【イエン】と発音するのに抵抗を感じるらしく、よく間違えるところだ。

en と eng にも微妙な違いがあります。

zhēn【真(チェン)】 zhēng【争(チョン)】

sēn【森(セン)】 sēng【僧(ソン)】

uen と ueng は前に声母をとらないとき、それぞれ wen、weng とつづられ、e の発音も en、eng と同じような違いがあります。また、前に声母をとるときには、それぞれ -un、-ong とつづり方が変化するので注意する必要があります。

wēn【温(ウエン)】 wēng【翁(ウン)】

dùn【頓(トゥン)】 dòng【動(トゥン)】

gùn【棍(クウェン)】 gòng【共(クワン)】

-ong のカタカナ表記で【ウ】とあるのに気をつけてください。この【ウ】を忘れると eng の発音と区別がつかなくなります。

dǒng【懂(トゥン)】 děng【等(トン)】

gòng【共(クワン)】 gèng【更(ゴン)】

zhōng【中(チュン)】 zhēng【争(チョン)】

cóng【从(ツワン)】 céng【层(ツワン)】

-ong は ueng のつもりで u を意識して発音しましょう。

8. 母音 er、接尾語 -r について

そり舌の母音 er は単母音の e【オ】を発音する口の構えをし、舌先をすこし巻き上げ【アル】と発音します。

èr【二(アル)】

érzǐ【儿子(アル'ツ)】

ěrduo【耳朵(アル'トオ)】

接尾語 -r がついた単語は、r 直前の韻母に影響を与えることがあります。ピンインの表記ではただ r がつくのみですが、カタカナ表記を見てください。

huàr【画儿(ハアル)】

wánr【玩儿(ワアル)】

mǎnmǎnr【慢慢儿(マン'マル)】

yīkuàir【一块儿(イ'クアル)】

yǒudiǎnr【有点儿(ヨウ'ティアル)】

とくに韻母の i、n などは思い切った切り捨てが必要です。また、最後の yǒudiǎnr は第3声と第3声が続く、接尾語の r により n が脱落し、そのことによって a が本来の【ア】の発音に戻るという、とても複雑な変化です。初級者にピンインだけを見せて正確に読めと要求する

に忍びないような発音です。

9. 介音の発音について

——発音に中国風の味付けを

ピンインの規則に慣れて発音もいくらかスムーズにできるようになってきたら、さらに一歩進めて、より中国語らしい発音をめざしましょう。日本人の話す中国語でついついおろそかにしがちなのが介音の発音です(介音については図Ⅰ参照)。中国語を学んだことのない人でも知っている中国語“谢谢”(シェシエ)、“再见”(ツァイチェン)、“豆瓣酱”(トウバンジャン)、“麻将”(マージャン)といった言葉の影響なのでしょう、jiang、xie、jian などの介音 i がおろそかにされがちです。カタカナ表記ではこの介音 i や u の存在に気付いてもらうように工夫をしました。

jia【チア】 bie【ピエ】

diao【ティアオ】 xiang【シアン】

gua【クア】 duo【トゥオ】

kuai【クアイ】 zhuang【チュワン】

介音 i では【ィ】、u では【ゥ】がそれぞれ発音のポイントです。また、duo の介音 u をはっきりと発音しないと dou と混同するおそれがあります。“酱”を「ジャン」と発音しているようでは、あなたの中国語はいつまでたっても本場の味になりません。

以上、カタカナ表記を中心に中国語の発音について解説してきました。

中国語では外国の人名・地名などを“莫扎特 Mòzhāte”(モーツァルト)、“纽约 Niǚyuē”(ニューヨーク)のように「音訳」して書き表します。これは日本語と異なりカタカナのような表記法をもっていないため、耳で聞いた音に近い漢字を当てて表記するしかないのです。漢字による表記がひとたび定着すると、それはもとの音から離れ中国語(共通語)の音で読まれることになります。この辞典で用いたカタカナ表記も、中国語で外来語を表記するときを使う漢字と似たところがあります。カタカナ表記にすべてを頼って発音すれば、発音された単語はもはや中国語の発音ではなくなってしまいます。

発音の練習には、正確な発音を直接聞き、テープやCDなどの音声教材を利用して、何度もできるまで発音することが大切です。その際この辞典のカタカナ表記を参考にして、より正確な中国語の発音を身につけてください。

中国語音節表

声 母 \ 韻 母		a	o	e	ê	-i	er	ai	ei	ao
		[a]	[o]	[ɤ]	[e]	[ɿ]	[ʅ]	[ɛ]	[ai]	[ei]
ゼロ声母		a ア	o オ	e エ	ê エ		er アル	ai アイ	ei エイ	ao アオ
両唇音	b[p]	ba バ	bo ボ					bai バイ	bei ベ	bao バオ
	p[pʼ]	pa パ	po ポ					pai パイ	pei ペ	pao パオ
	m[m]	ma マ	mo モ	me メ				mai マイ	mei メイ	mao マオ
唇歯音	f[f]	fa ファ	fo フォ						fei フェイ	
舌尖音	d[t]	da タ		de ト				dai タイ	dei テイ	dao タオ
	t[tʼ]	ta タ		te ト				tai タイ		tao タオ
	n[n]	na ナ		ne ノ				nai ナイ	nei ネ	nao ナオ
	l[l]	la ラ	lo ロ	le レ				lai ライ	lei レイ	lao ラオ
舌根音	g[k]	ga カ		ge コ				gai カイ	gei ケ	gao カオ
	k[kʼ]	ka カ		ke コ				kai カイ	kei ケ	kao カオ
	h[x]	ha ハ		he ホ				hai ハイ	hei ヘ	hao ハオ
舌面音	j[tɕ]									
	q[tɕʼ]									
	x[ɕ]									
そり舌音 (捲舌音)	zh[tʂ]	zha チャ		zhe チェ		zhi チ		zhai チャイ	zhei チェイ	zhao チャオ
	ch[tʂʼ]	cha チャ		che チェ		chi チ		chai チャイ		chao チャオ
	sh[ʂ]	sha シャ		she シェ		shi シ		shai シャイ	shei シェイ	shao シャオ
	r[ʐ]			re ロ		ri リ				rao ラオ
舌歯音	z[ts]	za ツ		ze ツ		zi ツ		zai ツ	zei ツ	zao ツ
	c[tʂʼ]	ca ツ		ce ツ		ci ツ		cai ツ		cao ツ
	s[s]	sa サ		se ソ		si ス		sai サイ		sao サオ

中国語の音節は、音節の初めの子音(声母)とそのあとに続く母音を中心とする部分(韻母)と声調とから構成されている。この音節表は、日本語の五十音図にならって、中国語の音節を声母(子音)と韻母(母音)の組み合わせとして一覧表に表したものである。声調は表示せず、また方言や感嘆詞に表れる特殊な音節(fiao, ng, hm, hng など)は、本辞典に収録したものを含め省略した。また本辞典で用いた仮名表記は声調による発音の変化、r化の影響等を考慮しているため、この音節表に付した仮名表記と必ずしも一致しないことがある。詳しくは(10)ページ以降を参照のこと。

ou [ou]	an [an]	en [ən]	ang [aŋ]	eng [əŋ]	ong [uŋ]	i [i]	ia [ia]		ie [ie]	iao [iau]
ou オウ	an アン	en エン	ang アン	eng オン		yi イ	ya ヤ	yo ヨ	ye イエ	yao ヤオ
	ban パン	ben ベン	bang パン	beng ボン		bi ビ			bie ビエ	biao ビャオ
pou ポウ	pan パン	pen ペン	pang パン	peng ボン		pi ピ			pie ピエ	piao ピャオ
mou モウ	man マン	men メン	mang マン	meng モン		mi ミ			mie ミエ	miao ミャオ
fou フォウ	fan ファン	fen フェン	fang ファン	feng フォン						
dou トウ	dan タン	den テン	dang タン	deng トン	dong トゥオン	di ティ	dia ティア		die ティエ	diao ティアオ
tou トウ	tan タン		tang タン	teng トン	tong トゥオン	ti ティ			tie ティエ	tiao ティアオ
nou ノウ	nan ナン	nen ネン	nang ナン	neng ノン	nong ヌウオン	ni ニ			nie ニエ	niao ニャオ
lou ロウ	lan ラン		lang ラン	leng ロン	long ルウオン	li リ	lia リア		lie リエ	liao リャオ
gou ゴウ	gan カン	gen ケン	gang カン	geng ゴン	gong グウオン					
kou コウ	kan カン	ken ケン	kang カン	keng コン	kong クウオン					
hou ホウ	han ハン	hen ヘン	hang ハン	heng ホン	hong フオン					
						ji チ	jia チア		jie チエ	jiao チャオ
						qi チ	qia チア		qie チエ	qiao チャオ
						xi シ	xia シア		xie シエ	xiao シャオ
zhou チョウ	zhan チャン	zhen チェン	zhang チャン	zheng チョン	zhong チュオン					
chou チョウ	chan チャン	chen チェン	chang チャン	cheng チョン	chong チュオン					
shou ショウ	shan シャン	shen シェン	shang シャン	sheng ション						
rou ロウ	ran ラン	ren レン	rang ラン	reng ロン	rong ルウオン					
zou ゾウ	zan ザン	zen ゼン	zang ザン	zeng ゾン	zong ズオン					
cou ゾウ	can ザン	cen ゼン	cang ザン	ceng ゾン	cong ズオン					
sou ソウ	san サン	sen セン	sang サン	seng ソン	song スウオン					